

インターバンクの声（2015年7月13日）

週初め今朝のドル/円相場は、6月29日と7月6日に続き3週連続のギャップ・オープンとなったが、ギャップ幅は過去2回に比べ僅かだった。さらにユーロ/ドルや豪ドルはギャップ・オープンとはならず、過去2週はギリシャを巡る国民投票や支援協議の進捗を見守りながらのスタートだったが、今週は最終的な決着が近づきつつあるとの見方と、協議はまだまだ難航するだろうとの見方が交錯しているようだ。また、アジア市場はギリシャ問題だけでなく、中国上海総合指数が金曜日に続いて上昇するのかどうかも確認しなくてはならず、早い時間帯から積極的に持ち高を積み上げるわけにはいかない。ギリシャの救済も中国株式市場の混乱も、直ぐに解決に向かうほど簡単だとは思われず、しかも今週の市場は、米国や中国の主要経済指標の発表、欧州中央銀行（ECB）や日銀の金融会合も予定されており、相場が動く材料が目白押しだ。この2週間ほどの期間、かなり乱高下した感のあるドル/円やユーロ/ドルは、レンジの中央近くに押し戻される格好になっているが、結局一番変化したのは0.78ドル近辺から0.74ドル台前半に下落してきた豪ドルだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。